

目次／テーマ展「新収蔵資料展」田鎖鶴立斎筆「花鳥図」表紙／
いわて文化ノート「1枚の絵をひも解く」p.2-3／展覧会案内「新
収蔵資料展-2008～2012新コレクション」p.4-5／事業報告
「第1回考古学セミナー現地見学会」早池峰山周辺の地質（日曜講
座・第66回地質観察会）p.6／事業報告「夏休み子ども招待事業
～夏休み！たんけん博物館～」 「よりよいものに 進化する博物館
まつり」p.7インフォメーション p.8

テーマ展 新収蔵資料展 — 2008～2012新コレクション —

2013年12月7日(土)～2014年2月23日(日)



花鳥図 田鎖鶴立斎（左幅・右幅）

通代官や納戸役を歴任し、藩主南部利敬に仕える武士である一方、画才を認められ絵の制作を行った田鎖鶴立斎（1773～1829）の作品です。今回の新収蔵資料展では田鎖鶴立斎が描いた本作を始め、平成20年度～平成24年度までに岩手県立博物館が収集・登録した資料のうち、未公開のものを中心に公開します。

■いわて文化ノート

1枚の絵をひも解く

専門学芸員 川向 富貴子



【写真1】盛岡市山賀橋の開通式（2013.5.29撮影）

盛岡市は北上川が中心部を南北に貫き、その支流である中津川や雫石川が東西にのびているため、川で分断された土地を繋ぐ橋が各地に設けられています。

そのひとつ、中津川に架かる「山賀橋（盛岡市山岸地区と加賀野地区）」は老朽化に伴う掛け替え工事のため、数年来通行止めとなっていました。その後、震災の影響で若干工期が遅れたようですが、2013年5月29日に無事開通しました。

当日は開通を祝うセレモニーがあり、三代世家族や地元のみ俗芸能である「山岸獅子踊り」などが列を成す渡り初めも賑々しく行われました【写真1】。

三代世家族や長寿の方による渡り初めは現在も全国的に行われているようですが、その起源は明らかではありません。橋

の将来を家や生命の永続に仮託し祈願する橋供養のかたちと思われませんが、いつどこで何のために始まったのか、明確な答えは見つかっていません。

■盛岡の渡り初め

ちなみに、盛岡藩の出来事を記録した『南旧秘事記』（『内史略』／江戸後期所収）や『盛岡砂子』（天保4年（1833））、『雑書』などに、江戸時代の橋の渡り初めに関する記述が複数みえます。

たとえば、慶長14年（1609）の「上の橋」渡り初めは三ツ割村百姓の左京さん91歳（『盛岡砂子』には111歳）と子孫の計12名が出たとあります（『南旧秘事記』）。

また、天保7年（1836）の「夕顔瀬橋」渡り初め供養では茅町の善兵衛さん49歳と女房45歳、その子ども11人の計13

名が出たとあり、「橋渡は十二人往 昔よりいへり 夫には一人余」と、昔から渡り初めは12名といわれるが一人多く出たと加筆されています（『南旧秘事記』）。夕顔瀬橋は、明暦2年（1656）の架設時も六日町の五右衛門さんと一腹一生の子ども10人が渡り初めをしたと『雑書』に記載されます。

これらの記述を見る限り、江戸時代に盛岡で行われたという渡り初めは三代であることよりも、大家族であることに重きが置かれていたように思えます。

■ある摺り絵との出会い

筆者は、2010年3月に企画展「病をいやす〜くすり・ましない・神だのみ〜」を担当しました。その準備段階で出品資料を探している折り、ある1枚の摺り絵が目にとまりました。

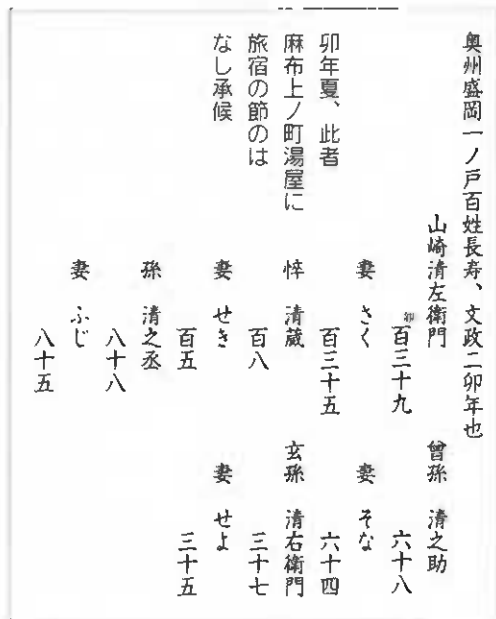
それは、岩手県立図書館が蔵する『張込帳』という画帖に納められた木版摺りの一枚物で、文政5年（1822）の銘があり、「奥州森岡一ノ瀬村」の山崎清左衛門さん143歳・妻139歳を筆頭とする山崎家五夫婦の姿が描かれていました【資料1】。

その後、国立公文書館内閣文庫蔵書『雑事記』巻35（天保8年（1837））に、同家族と思われる記述を見つけました。それには、麻布の湯屋に清左衛門さんの息

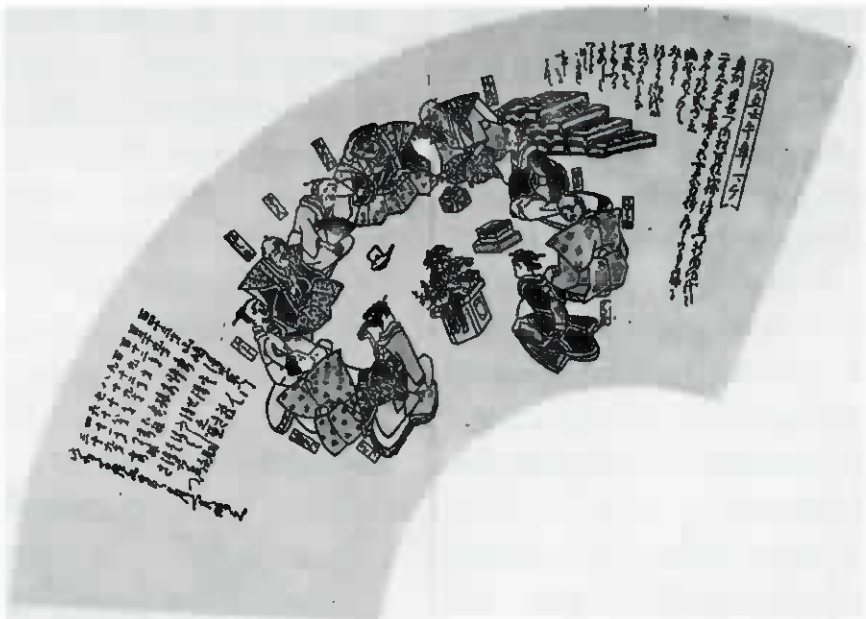


【資料1】長寿家族の図「張込帳」所収とその翻刻
文政5年（1822）銘 岩手県立図書館蔵 04-9.

文政五年まで
奥州森岡一ノ瀬村百姓山崎清左衛門、持田地代々二千石余也。長寿之五丈夫相揃居申候事、ま事に古今珍敷ゆへ、とづあらわす所也。
治まる御代の 民くさはみな 万歳をと
となふるためしと いともめで度 事にこそ
百四十三才 山崎清左衛門
百三十九才 妻 さん
百二十九才 悻 清蔵
百二十九才 妻 せき
九十二才 孫 清之丞
八十九才 妻 ぶじ
七十才 ひ孫 清之介
六十八才 妻 はな
四十一才 つる孫 清右衛門
三十九才 妻 さつ
此外 ■之子共衆多く御座候へ共略之。
各々…（以下、判読不能）

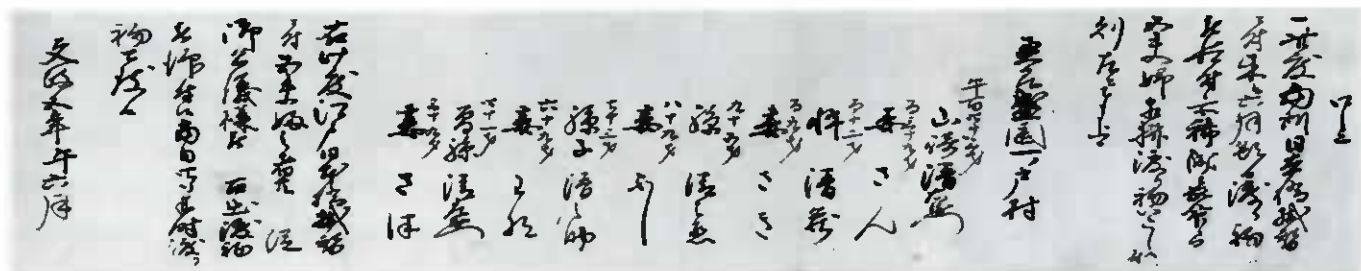


【資料2】『雑事記』該当部分の翻刻



【資料3】日本橋掛替渡初五夫婦の図 (扇面)

東京都江戸東京博物館 蔵



【資料4】日本橋掛替渡初五夫婦の口上 文政5年(1822)銘

東京都江戸東京博物館 蔵

子で108歳の清蔵さんが旅宿していたときの話と記載され、文政2年銘であるためか、文政5年銘の資料1と異なり家族の年齢が全員4歳若く明示されていました【資料2】。

筆者は、この2つの資料を見た段階で、単純に社寺で頒布した縁起物の摺り絵が瓦版と考え、展示会の“長寿と養生”にまつわる場面で出品紹介しました。

ところが、2012年5月に東京都江戸東京博物館で開催された開館20周年記念特別展『日本橋～描かれたランドマークの400年～』を見て、自身の調査が不十分であったことを思い知りました【資料3・4】。

■日本橋の渡り初め

交通の要所であり経済の中心地であつ

た日本橋。そのような場所で行われるセレモニーの主役は、どれほど名誉なことだったでしょう。

『甲子夜話』(江戸後期)という随筆には、文政5年夏の日本橋掛け替えてご長寿の老人が何人渡り初めをするか世の評判になっていたと記録されています。

東京都江戸東京博物館が蔵する資料4には、その文政5年に盛岡一ノ戸村の山崎清左衛門さん一家が御公儀様(幕府か)から召し出され渡り初めを仰せつけられた長命の五夫婦であると書かれていました。

■山崎清左衛門さんのその後

ところで、山崎清左衛門さんは『宝暦現来集』(江戸後期)という随筆集にも「南部盛岡領分鳴岡村の百姓」の素性で登場

します。これによれば、清左衛門さんの実年齢は80余歳であったようですが、山師(この場合は詐欺師の意か)に日本橋付近へ連れ出され、自身の年齢を詐称されているとも知らずにいたようです。

その後、山師とともに捕らわれの身となった清左衛門さんは、入牢して間もなくお亡くなりになったとのこと。縁起物の摺り絵とばかり思っていた長寿家族の図【資料1】、その裏には悲哀に満ちたストーリーが存在していました。

※本稿に掲載した『内史略』、『盛岡砂子』、『雑書』、『甲子夜話』、『宝暦現来集』は翻刻本に拠りました。また、東京都江戸東京博物館調査報告書第16集 平成13年度シンポジウム報告『日本橋』(2003)を参照しました。

■テーマ展

新収蔵資料展 —2008～2012新コレクション—

会期：12月7日(土)～平成26年2月23日(日) 会場：特別展示室

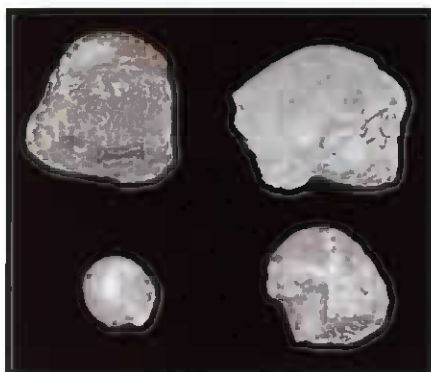
貴重な資料を収集し、後世に伝えることは、博物館の重要な活動の一つです。

一度失われたら二度と戻らない資料を収集し、保管することで、今の世に公開するとともに、未来へと引き継ぐことができます。

岩手県立博物館では平成20年度～平成24年度に68,501点の資料を新たに収集、登録しました。岩手県立博物館の現在の収蔵資料総数はおよそ25万点。多くは博物館資料の充実のために寄贈していただいたものです。

今回の新収蔵資料展では、新登録の資料の中から、未公開資料を厳選して展示します。

■地質部門



アンモナイト化石

葛巻町尻高 後期石炭紀 写真左右約15cm
 左よ ンモノイド化石 IPMM 63059
 右よ ンモノイド化石 IPMM 63063
 左よ ンモノイド化石 IPMM 63057
 右よ ンモノイド化石 IPMM 63064

◆北部北上山地の古生代アンモノイド化石

北部北上山地（北部北上帯）の大部分はシウラ紀の付加体でできています。付加体とは、海洋プレートの沈み込みで深海と陸源の堆積物が陸側に付加された複雑な地質体です。北部北上帯の西半部は葛巻―釜石垂帯として区分されていますが、その北西端付近の葛巻町尻高で後期石炭紀のアンモノイド化石が発見され、2010年に学界に報告されました。こ

れらのアンモノイドの仲間はすべて山口県の秋吉石灰岩から知られています。尻高のアンモノイド化石を含む石灰岩には海洋島起源の玄武岩がともなっているため、これらは遠洋性の海山―生物礁複合体であったと考えられます。このことから、葛巻―釜石垂帯の付加体をつくった海洋プレートは後期石炭紀には誕生していたことがわかりました。

■考古部門



打製石器 奥州市江刺区伊手

上写真は奥州市江刺区伊手で採集された打製石器です。形態などの特徴から、縄文時代の打製石器と考えられます。

写真右の石器をご覧ください。上方の括れた部分は敲打によって厚みのある円筒形に整えられた基部、下方の広がっている部分は打ち欠きによって側縁が鋭く調整された刃部といます。基部を棒に固定し、尖った刃部で地面を掘りおこす土掘具として使われた可能性が考えられます。

■生物部門

◆1万点を越える昆虫資料

新しく収蔵された標本は、チョウ類だけでも119種約1万点を越えています。この中には、今まで当館に収蔵されていなかった、北海道より南下している外来害虫のオオモンシロチョウや北上しているチャバネセセリも含まれています。

新たに収蔵された昆虫標本のうち、主

なコレクションを以下に紹介します。

工藤コレクションは、1980年から2000年頃の岩手県中央内陸西部における里山周辺の一帯のチョウ相の概要を示すものです。さらに、現存する岩手県南産唯一の標本として一関市花泉町金沢で1970年に得られたヤマキチョウがあります。



ヤマキチョウ
Gompertus maxima maxima

また、小田善良コレクションは、1990年代の花泉町（現一関市花泉町）に限定して採集した岩手県南平坦部におけるチョウ相の現状をよく反映した標本群といえます。その中には、後翅の赤紋が異常に発達した極めて珍しいオナガアケハも含まれます。

千葉武勝コレクションは、1993年から2010年に採集された岩手県内産チョウ類他の昆虫標本のすべてに同定ラベルと詳しい位置情報を伴った採集ラベルが付されています。

これらのコレクションの大部分は普通種ですが、岩手県内の詳細な分布図の作成や将来の環境変化等による顕著な変化が生じた場合の比較対照データとして必要不可欠です。

その他の資料として、岩手県内で撮影された生態写真や古典的な昆虫書籍、当館に寄贈され東日本大震災の被害を免れた三陸沿岸の海浜性昆虫標本も展示します。

◆押し葉標本による貴重な記録

岩手県立博物館では、県内に生育する植物の標本を積極的に収集しています、

これらは、現在の岩手県にどのような植物が生育しているか、また過去にはどのような植物が生育していたかという、基礎的かつ重要な情報の直接の証拠になります。これらの情報は植物の分布図を描いたり、外来種の防除や絶滅危惧種の保全に関する計画を作る時などに役立ちます。もちろん植物分類学・生態学の研究材料としても重要です。



シハイスミレ
釜石市 武田眞一氏 採集・寄贈

本展では、平成20年度以降に収集した押し葉標本の中から、岩手県で新たに見つかった種や、新たな研究のもととなった標本などを中心に展示します。例えば釜石市産シハイスミレ(武田眞一氏採集・寄贈)は、岩手県で約50年ぶりにシハイスミレが再発見された証拠となる、大変重要な標本です。美しい生態写真とともにお楽しみ下さい。

■民俗部門

◆花巻・佐藤家の生活関連資料

花巻市の佐藤家は旧奥州街道沿いで荒物屋を営んでいました。寄贈資料の多くは商用ではなく、日々の生活のなかで使われたものです。江戸時代から戦前・戦後にわたる使用歴のある資料のほか、戦時期といった時代を感じさせる資料もあります。

民俗資料の分類のしかたによって大きく分類すると、「衣食住」の衣と食にあた

る資料が群を抜いて多く、①江戸時代から昭和にかけての着物(これには仕立て直しが見られ、代々着用されたことがわかります。)②椀・膳などの漆器(保存状態が良くないのですが、古くは江戸時代の年号が墨書された漆器があります。)③陶磁器(皿・茶碗・猪口。何かの記念に猪口を配る風習があり、世相が反映されています。)と大別されます。

ある一家のまとまった生活関連資料で、生活の変遷や時代が色濃く反映された民俗資料です。

◆千葉家の郷土玩具コレクション



お父様が40年間に収集した全国の馬の郷土玩具などが寄贈されました。午年生まれだったコレクターは馬に興味を持ち、旅行に出るたびに馬に関する特産品を買い求めたそうです。分類すると、わら馬・絵馬・土製馬・木製馬となりますが、そのほかにこけしもあります。なお、なかには名称のわからないものもあります。ご存知のかたはお知らせいただければ幸いです。

◆佐藤松之助資料

明治から昭和初期に奥州市江刺区で大工棟梁として活躍した佐藤松之助の資料です。佐藤松之助は文久3年(1863)に生まれ、16歳で大工棟梁の弟子となり、修業ののち大工棟梁となりました。

さらに花巻の2代目高橋勘治郎の弟子となり、黒石寺薬師堂建立など多くの社寺や住宅を手がけました。設計図書のほか、雛形・建築儀礼・普請帳などが残されています。なかでも弟子入り証文は貴重で、当時の習俗を知ることができます。

■歴史部門

◆「花鳥図」 田鎖鶴立斎

江戸時代後期には、盛岡(南部)藩では画才のある藩士に一定期間絵の製作を命じられるようになりました。藩主南部利敬の側近をつとめた田鎖鶴立斎もその例で、花鳥画や山水画を描いた作品が残されています。田鎖鶴立斎は、盛岡藩士田鎖治五衛門光康の三男として生まれ、通代官や納戸役を歴任しました。幼時より画を好み、谷文晁(1763~1840)に学んだといわれています。文化13年(1816)には弟で画家の本堂蘭室とともに江戸で画会を開きました。寄贈資料の中から、「花鳥図」(本号表紙に記載)を展示します。

◆菊池家の近現代資料

明治時代に盛岡市・花巻市に居住していた菊池家に関連の近現代資料です。

日露戦争(1904-1905)に従軍し、中国で戦死した人物の資料が主で、家族と所属していた部隊との間のやり取りを中心とする書類や手紙等が多数あります。中には乃木希典からのハガキも見られます。これらは日露戦争期の遺族補償システムを明らかにする上で貴重な資料と言えます。

展示解説会

- ・12月15日(日)
 - ・2月11日(火) 建国記念の日
- 各回とも14:30~15:30
(当日受付 入館料が必要です)
学芸員が展示の見どころをご案内いたします。

■事業報告

平成25年度 考古学セミナー—現地見学会

平成25年 9月21日

現地見学会の主な見学場所は、金ヶ崎町所在の国指定史跡の鳥海柵遺跡です。鳥海柵遺跡は11世紀陸奥国奥六郡の豪族の武士団安倍氏の本拠地と位置付けられる遺跡です。前九年合戦の顛末を記した「陸奥話記」に登場する安倍氏方の施設「鳥海柵」に相当することが発掘調査により確定されています。

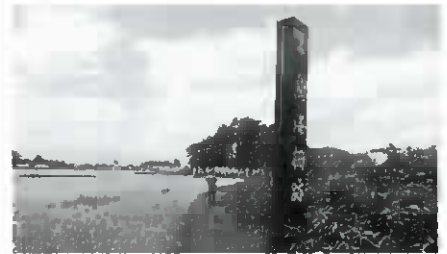
一般参加者31名とスタッフ6名はバスで東北縦貫自動車道を南下し、金ヶ崎町に入りました。現地探訪に先立って金ヶ崎町中央生涯教育センターに立ち寄り、金ヶ崎町文化係長の浅利英克氏に鳥海柵遺跡の概要と出土遺物について実物を示しながらのご説明をいただきました。浅利氏は鳥海柵遺跡の発掘主任で、史跡指定へ向けての中心的な役割を担

た人物です。そして、浅利氏にも同行をいただいて鳥海柵遺跡現地を訪れました。遺跡の範囲は広大で、踏査可能な範囲は「鳥海地区」に限定されてしまいましたが、浅利氏の現地調査に基づいた具体的な説明を受け、また望見できる「原添下地区」や「二ノ宮後地区」についても、全体の中での位置付けや場の特性を説明いただき、鳥海柵遺跡の全体構造を理解することができました。また、遠望できる鎮守府（胆沢城）を視認することで位置関係を確認し、緊密でありながらも距離感を保っているという、安倍氏と公権力の関係をも体感することができました。

鳥海柵探訪後は、仙台藩の金ヶ崎要害に附属する武家屋敷地区「城内・諏訪小

路重要伝統的建造物群保存地区」を訪れました。そしてその後、中世胆沢郡の中核的な城館である「大林城」を訪れ、残存する土塁や堀を踏査し、中世城館のリアルな姿を体感しました。

歩く時間が多く、強行日程と感じた参加者の方もいらっしゃったようですが、考古学は遺跡現地の踏査が必須の学門であり、現地踏査で学び、発見できる事象は多いと考えます。



(主任専門学芸員 羽柴 直人)

■事業報告

「早池峰山周辺の地質」県博日曜講座と地質観察会の連続事業

平成25年 9月22日（県博日曜講座） 平成25年 9月23日（第66回地質観察会）

このほど、産業技術総合研究所（茨城県つくば市）から5万分の1地質図幅「早池峰山」が刊行されました。これを記念して、当館と産業技術総合研究所地質標本館との共同企画として、「早池峰山周辺の地質」に関する「県博日曜講座」と「第66回地質観察会」の連続事業が開催されました。講師は、ともに長年早池峰山図幅の地質調査に携わってきた川村

寿郎氏（宮城教育大学教授）と内野隆之氏（産業技術総合研究所企画主幹）です。北上山地は、盛岡～早池峰山～釜石にわたって従来「早池峰構造帯」とよばれてきた地帯を境に北部北上帯と南部北上帯に分けられます。最近の研究では、盛岡から早池峰山にわたる地域は古生代石炭紀（3億年ほど前）の付加体（海洋プ



川村先生の講演

レートの沈み込みで深海と陸源の堆積物が陸側に付加された複雑な地質体）であることがわかって「根田茂帯」とよばれるようになり、早池峰山などに分布する超苦鉄質岩などは南部北上帯に含められるようになりました。

観察会の参加者（35名）の多くは前日の日曜講座（65名）から参加し、日本で



内野先生の説明を聴く（盛岡市築川）

は他に類をみない複雑で特異な地質を観察し、事前レクチャーも含む講師のわかりやすい説明で、古生代の地球の営みについて思いを馳せていました。ただ「早池峰」の名にひかれて参加した人々も、十分に満足できる講演会と観察会だったようです。

(学芸部長 大石 雅之)

■事業報告

平成25年度夏休み子ども招待事業 ～夏休み!たんけん博物館～

平成25年7月26日(金)・27日(土)・8月2日(金)・3日(土)・9日(金)・10日(土)

当館では夏休み期間中に無料の送迎バスを運行し、遠方の市町村に住む小学生とその家族を博物館に招待する事業を行っております。三回目を数えた今年は、北は洋野町から南は陸前高田市に至る、本県沿岸部に所在する学校を対象とし、過去最多となる484名の方々に応募をいただくことができました。

事業実施日はいずれも企画展「いわての光る生きものたち～大震災からの復興の光～」の開催期間に当たり、子どもたちは照明を落とした展示室の中で、蛍をはじめとする生きものたちが発する光に見入っていました。

企画展・常設展示の見学に続いて、企画展に関連する体験教室「光るバッチづくり」にチャレンジしました。蓄光粘土

を使って好きな形に型取りして作るもの、お気に入りの生きもののイラストを選び缶バッチ製造機を使って作るものの2種類を、一人ひとりが手がかけます。1時間ほどかけて完成させたバッチが暗闇で光った瞬間には、毎回大きな歓声が上がりました。

また昼食会場としてご用意したのは敷地内に所在する江戸時代の民家。真夏でも静かで涼やかな空気が漂う曲り屋の中で家族や友人と食べたお弁当もまた、博物館でしか味わえない夏休みの思い出の一コマとなったことでしょう。

光る生きもの不思議にふれたり、工



作に熱中したりしている時の子どもたちの目は蛍やバッチに負けないほど輝いていました。参加してくれた小学生の皆さんの心の中で、学ぶことの楽しさ、よき光が、この夏の思い出とともに永遠に灯り続けることを願ってやみません。

(学芸調査員 目時 和哉)

■事業報告

よりよいものに 進化する博物館まつり

第5回 博物館まつりを終えて

今回は、前年度までの反省を踏まえ、満足度向上のために様々な改善を試みました。

全体受付で園児・児童には参加証を記名して貼付してもらいました。開始時刻がある4コーナーを6回で同時帯にし、開始時刻20分前に整理券を配布し、待機してもらって会場まで誘導したことから、進捗がスムーズでした。勾玉作りは合成琥珀から樹脂粘土に変更して色付けが自由になり、化石のレプリカ作りも型取りされた石膏型に色塗りするものから、お湯で柔らかくして型に入れるおゆまるくん利用に替え、土偶作りは完成まで時間を要するので、土版作りにして乳児の手形や足形も、とうろう粘土でつくって記念に出来るようにしました。

火熾しは、毎年チャレンジする児童がいるほど熱を帯びます。児童は自分で、園児は保護者の付き添いで体験することが定着してきました。開始時刻不定の石臼挽き、昔遊び、変身!、チャレンジはくぶつかん!に加えて他のイベントで好評を博した缶バッチづくりが追加になりました。アニメシアターは宮澤賢治没後80年を記念して彼の作品4本を上映し、コンサートは、子供に人気の高いアンダーパス (underpath!) が3年ぶりの登場し、職員の入った着ぐるみわんこ兄弟と共演しました。陸前高田市立気仙中学校のけんか七夕太鼓の演奏が小雨のなか行われ、大きな拍手に包まれました。喫茶ひだまりはお弁当販売を軸に変更されました。ケータリングカーなどの販売は

7社に増えました。テーマ展『川口月嶺のまなざし』への集客につながりました。盛岡駅からのシャトルバスは今年度から廃止にしました。天候と近隣市町村の産業まつりなどと重複しないように開催日の選定が難しいものの、まつり自体が認知され、定着化しつつあります。例年並の来館者の笑顔に支えられ、終了しました。改めて関係の皆様のご協力に感謝します。



(主任専門学芸員 佐々木勝宏)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション (2013.12.1~2014.3.31)

展覧会

■テーマ展

「新収蔵資料展-2008~2012新コレクション-」

12月7日(土)~2月23日(日)

特別展示室

平成20年度から24年度に当館で収集し、新たに登録された68,501点の資料の中から、未公開資料を中心に展示します。

展示解説会

12月15日(日)

2月11日(火・祝)

14:30~15:30

特別展示室 要入館料



郷土玩具 (民俗)

■テーマ展「比爪-もう一つの平泉-」

平成26年3月15日(土)~5月11日(日)

特別展示室

奥州藤原氏の第二の拠点「比爪」(岩手県紫波町)。比爪は平泉に匹敵する都市か。考古学資料を中心に、その実像を紹介いたします。

展示解説会

3月16日(日) 14:30~15:30

特別展示室 要入館料

関連事業

考古学セミナー講演会・日曜講座の欄をごらんください。



紫波町小路口遺跡出土遺物 (岩手県教育委員会蔵)

■冬期文化講演会

2月6日(木)13:30~15:00 講堂 当日受付 聴講無料

「昆虫標本の意義と保管上の留意点」

講師:千葉武勝氏(元岩手県農業試験場研究員)

■考古学セミナー講演会

3月21日(金・祝日)13:00~15:30 講堂 当日受付 聴講無料

「御館・大名・国人-中世成立期の東日本における兵たち-」

講師:高橋一樹氏(武蔵大学教授)

※テーマ展関連事業

■県博日曜講座

第2・第4日曜日13:30~15:00 当日受付 聴講無料 講堂・教室
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

※テーマ展関連

12月8日「縄文時代の「孔」について」

八木勝枝(学芸員)

12月22日「はじめての南部絵巻~南部絵巻を読み解く・入門編~」

瀧川 修(学芸員)

1月12日「重要文化財「白磁四耳尊」の修復」

川又 晋(学芸員)

1月26日「北三陸・大地のおいたち資源の魅力」

大石雅之(学芸部長)

2月9日 第6回「みんなでつくる植物誌」講演会

「岩手県植物誌改訂に向けて」

鈴木まほろ(学芸員)ほか

*この回は16:00終了です。

2月23日「平安時代の火山噴火と遺跡」

丸山浩治(学芸員)

3月9日「エクスカーション「盛岡」~3コースで盛岡を探る~」

中山 敏(館長)

3月23日「俺の平泉~比爪を斬る~」

八重樫忠郎氏(平泉町役場)

※テーマ展関連講座

■冬休みたいけん教室

1月10日(金)・11日(土)10:00~12:00、13:00~16:00

対象 幼児(保護者同伴)~小学生。参加無料

定員 各プログラム1日70名

当日受付(午前・午後の終了30分前まで)

「まが玉アクセサリー」「化石のレプリカづくり」「ちぎり絵のペン立て」のなかから、ひとつえらんで工作ができます。所要時間30分。

■週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日13:30~15:10 講堂 当日受付 視聴無料

童話や昔話、感動の物語を上映します。小中学生~一般対象

12月7日 真冬のおばけ特集

日本のおばけ話シリーズ、ミッキーマウスのおばけ退治、ムーミン 消えないおばけ

2月1日 おに特集

新しい赤おに、おにたのぼうし、鬼の子とゆきうさぎ、鬼から

3月1日 人形特集

おじいさんと不思議なおくりもの、おじいさんとてぶくろのお家、わらしべ長者、魔法の指輪、おこんじょうり

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

12月14日・15日・21日・22日・23日 テーマ:水

1月11日・12日・13日・18日・19日 テーマ:人

2月8日・9日・15日・16日 テーマ:鉄

3月8日・9日・15日・16日 テーマ:金

◆たいけん教室~みんなでためそう~(予約制)

毎週日曜日13:00集合~14:30 幼児・小学生20名程度 参加無料

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※要事前申込み。参加を希望する日の1週間前の日曜日から前日の9:30~16:30まで(休館日を除く)電話または博物館で先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。詳細はお問い合わせください。

12月	1日	松ぼっくりのクリスマスツリー	15日	まゆで干支(午)づくり
	8日	ごんげんさまのカスタネット (いさかまき先生)	22日	かんたん門松づくり
1月	5日	まゆで干支(午)づくり	19日	たこづくり
	12日	みずきだんご	26日	入浴剤づくり
2月	2日	石のオリジナルはんこ	16日	土器づくり
	9日	ほかほかカイロづくり	23日	はまぐりのおひなさま
3月	2日	こぼくの玉づくり	23日	石から絵具をつくろう
	9日	化石のレプリカづくり	30日	ガラスの万華鏡
	16日	スライムであそぼう		



■定時解説

平日・土曜13:30~14:30 日曜10:30~11:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員がご質問や解説のご希望におこたえしています。

■利用のご案内

■開館時間 9:30~16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館。=12月24日、1月14日)

資料整理日(9月1日~10日)
年末年始(12月29日~1月3日)

■入館料 一般300(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料
()内は20名以上の団体割引料金

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第139号 平成25年12月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
-------------------------------------	---